

## エアウェイ針

2019年01月作成

微生物検査用

## Sterile Airway Needle/Subculture Units

## 【概要】

本品は、血液培養ボトルからの培養液採取に使用します。針は 20G です。

## 【全般的な注意】

1. 患者への使用禁止。
2. 単回使用。再使用禁止。
3. シールが損傷している場合は、滅菌が保証されないため使用しないこと。

## 【使用前の注意】

1. 装置での判定が陽性になった培養ボトルは速やかに装置から取出す。
2. 陽性ボトルの処理は適切な保護具を着用して安全キャビネットの中で行う。
3. 培養陽性ボトルを通気する場合は、検体の過剰接種または細菌の代謝により産生されたガスにより内圧が上昇している場合があるので注意する。
4. 検体の過剰接種または内圧の上昇が想定される場合、室温で 10 分以上静置する。

## 【通気の方法】

1. ゴムストッパー部分を消毒する。
2. エアウェイ針の滅菌密封された箇所を上に向けた状態で、両端を持ち、両端をたわます様にして開封する（右図参照）。  
エアウェイ針の白キャップを外し、ボトル穿刺側の針（短い鋭針）を露出させる。  
この時点では透明キャップは取り外さないこと。
3. 陽性ボトルを通気する際は、圧のかかったボトル内容物の噴出による暴露のリスクを最小限に抑えるために、通気口を操作者に向けないこと。
4. 消毒したゴムストッパーの中央部分に、穿刺側の針を刺す。透明キャップをわずかに（約 0.5cm）持ち上げる。通気により、陽性ボトル内の過剰なガスが抜ける。2-3 秒通気をした後に、透明キャップを押し下げて再封する。



## 【検体採取手順】

1. 通気した陽性ボトルから検体を採取する場合は、ゴムストッパーを上にした状態でボトルを持ち、ボトルの底部で円を描くようにして静かに混和する。
2. 無菌的に透明キャップを取り外し、検体採取側の針（長い鈍針）を露出させる。
3. 培養ボトルを傾け、サブカルチャー用寒天培地には 1-2 滴程度、染色用のスライドグラスには 1 滴程度を滴下する。
4. 培養液採取後は注意してエアウェイ針を培養ボトルから取除き、シャープスコンテナに廃棄し、施設の基準に従い廃棄する。エアウェイ針は、再使用しない。